



子育てチャンネル

子どもらしさを育つ豊かな知性と感情

幼い子どもを見てみると、危なっかしくて思わず手を貸そうとしたり、「危ない」とか「やめなさい」などと注意したり、子どもがしようとするのを止めたりしてしまうことがよくあります。

でもよく見てみると、子どもは自分でいろんなことを考え、試し、挑戦しています。幼い子どもは自分の手や体を精いっぱい使いながら、周りの世界や物や人を知ろうとしています。

この学ぼうとする力や学んだことを身につける力には本当に感心させられます。驚くべき学習能力です。

そして徐々にできるようにはなりますが、乳幼児期の「したい」という気持ちは子ども自身ではなかなか抑えられないのもまた、この時期の特徴です。「したいことをやってみる」こと

を通して、子どもは育っていきます。自分で育とうとする、自分で育つ力を持っているのです。

ですから直接手を出したり、言葉で制止するのではなく、子どもが「自分でしてみたい、と思うこと」をできるだけさせてあげること、

できるような環境をつくってあげることが大切です。

そのためには、

①大きなけがをしない程度に安全であること②子どもが他の子どもや周りの大人との関わりを持てるようにすることーに加えて、我慢強く見守ることも大切です。もちろん、そうした力が



発揮される基盤になる親子関係の安定も大切です。子どもが毎日、だいたい機嫌よく過ごしていれば子育ては上手にできているといえます。

ちょっと難しいのは、他の子どもとおも

ちゃを取り

合ったりし

そうな場

面でも、

我慢して

見守った

り、もし

何かあつ

ても許し合

えるような他

のお母さんとの関係をつくっていくことです。

いっしょに育てていくと、気持ちが高くなるものです。

考えてみれば、子育ての初期に親としての我慢強さ

やよそのお母さんと関わる力が求められることは、な

んだか試されているような気もしますし、親としての成長を促されているような気もします。こうして私たち親も親らしくなり、いっしょに子どもを育てていく仲間になるのだと思います。

子どもらしさを大切にするために、周りの大人がつくっていく環境がとても大切です。幼児センターの先生方をはじめいろいろな方々の力も借りながら、子どもらしさを大切にしてください。子どもたちの姿に、きつと親としても幸せを感じますし、豊かな感情と知性を持った子どもたちに育っていくことが予感できるはずですよ。

和洋女子大学

太田光洋